

【特別編】 認知症ご本人と一緒に「ケアニン」を観る会

「ケアニン」は認知症のご本人たちが主体となり活動をしている「一般社団法人日本認知症本人ワーキンググループ」の活動に賛同し、上映料の一部を同団体に寄付しています。また、同団体と「ケアニン」の協同企画として、全国各地で開催される「ケアニン」上映会で、地域に住む認知症ご本人と一緒に「ケアニン」を観る会の普及を推進しています。

今回はそのモデルケースとして、2018年にNHK厚生文化事業団の「認知症にやさしいまち大賞」を受賞した御坊市での上映会事例をご紹介します。

<御坊市 様>

- 上映日: 2019/03/06(水)
- 会場: 源行寺(和歌山県御坊市)
- 参加者: 認知症ご本人13名、
支援者・ご家族17名の計30名



● 認知症ご本人の方々に、どのように集まっていただきましたか？

地域の介護施設にお声がけをし、スタッフと一緒にご本人にもお越しいただきました。また、普段から、介護をされているご家族やご本人たちの交流会「ごぼうホットサロン」を定期的**に実施**しており、その繋がりからも参加を募りました。ご本人に直接チラシを手渡して声をかけたことにより、多くの方にご参加をいただきました。

Point ▶ 気軽に楽しく参加してもらえる交流会を

御坊市では、認知症ご本人やそのご家族が集まる「ごぼうホットサロン」を定期的開催している。

● 一般的な認知症カフェ

- ・会場は役所がもつ施設や会議室など
- ・参加はご家族中心
- ・飲み物は主催側が用意したペットボトルのお茶など
- 堅苦しい雰囲気になりがちで、人が集まりにくくなる

● 御坊市「ごぼうホットサロン」

- ・会場は地元のカフェやスーパー銭湯など、地域住民が普段から利用しているお店や施設
- ・認知症ご本人の方々の参加が中心
- ・それぞれが好きな飲み物を注文する(飲食代は自己負担)
- リラックスした楽しい雰囲気になり、人が集まりやすくなる
- 認知症ご本人の方が地域へ出ていききっかけにもなる

● 実行委員会は、どのようなメンバーでしょうか？

行政、介護職、医療職、福祉職等の、御坊市認知症コーディネーター会議(※)のメンバーです。
※認知症コーディネーター会議: 御坊市独自の取り組みで、行政だけでなく様々な専門職で構成されたメンバーと1~2カ月に1度の頻度で認知症施策やまちづくり、研修の企画を行なっている。



●上映会当日の様子や、上映会開催の感想を教えてください。

「本人とともに映画を観る」ということを初めてやってみて、本人から観た感想と支援者から観た感想をそれぞれその場で共有できたことが良かったという感想をいただきました。
また今回の上映会は、地域にあるお寺の本堂で開催しました。この開催場所を決める際、認知症コーディネーター会議で検討し、お寺という案が出ました。これは、行政だけの企画では思いつかないアイデアだと思いました。実際、お寺の雰囲気良くて、畳の上で楽に座ったりして鑑賞できる環境は参加者にも好評でした。また、映画上映前に沖縄三線の演奏を行い、認知症の本人たちと一緒に歌ったことで緊張感をほぐせたことも良かったです。



スクリーンとプロジェクター、持ち運びスピーカー、再生デッキを持ち込み上映。



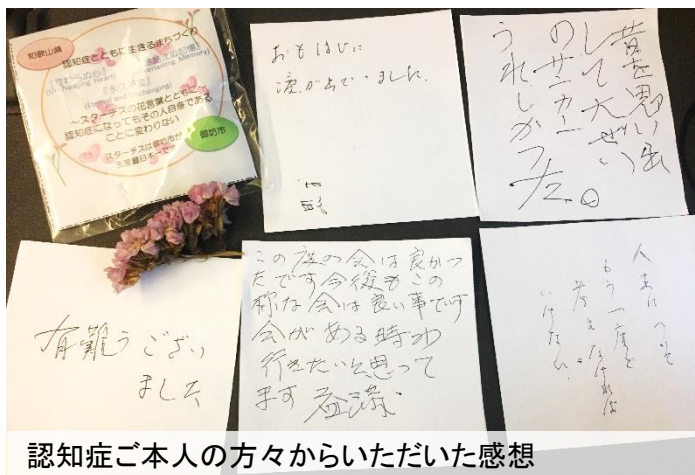
上映中の様子

●地域の方々と繋がったエピソードがあれば教えてください。

お寺での上映会ということで、お寺側も地域貢献ができたと話されていました。
また、上映会前日に介護施設で餅つきが行われ、その餅が当日の鑑賞後にみんなで食べるぜんざいに使用され、更にそのぜんざいを作るのも本人たちが行き、本人たちの活躍が繋がったことが嬉しかったです。



ご本人たちが作った手作りぜんざい



認知症ご本人の方々からいただいた感想

●今後、上映会を開催される主催者の皆さんに向けて、メッセージをお願いします。

認知症の本人たちと観る上映会はおすすです。特に、ケア関係者が日ごろ関わっている本人と一緒に観ることで、その人の視点や思いに気付くきっかけになったりすると思います。

ご担当者：
御坊市 市民福祉部 介護福祉課
谷口 泰之さん